



静岡理工科大学

グリーンツーリズムの導入モデルの 確立方式

Establishment Method of Green Tourism
Introduction

担当指導教員 林 章浩

情報学部情報デザイン学科

1718140 吉永 裕貴



輝く未来へ
はばたく力を



世界がグローバル化され、昔と比べると格段に気楽に海外旅行ができるようになった。

国内の旅行需要

中学校や高校での修学旅行
会社での職員の慰安旅行など・・・



その需要を取り込むことができれば、地方都市は大きな売り上げが期待できる



袋井市は海も山も自然も沢山あり、観光地として大変恵まれた環境である

本研究では、国内の修学旅行を対象とし、アカデミックな価値のある旅行体験を提供するビジネスモデルの確立を目指す

このような活動はグリーンツーリズムと呼ばれ、国内外でも議論され始めている

国内のグリーンツーリズムの成功事例を調査し、成功のための必要条件を抽出することで、国内修学旅行を誘致するためのモデルを確立する



グリーンツーリズムとは

グリーン(自然)/ツーリズム(旅行)とは、自然豊かな地方都市に短期滞在して、その地方独特の文化や食材などのコンテンツを堪能する企画である。



グリーンツーリズムの有効性は、民間レベルにとどまらず、既に国家レベルで議論されている。



袋井市

人口88,286人(令和3年元日現在)

東西約15km

南北約17km

面積108.33平方キロメートル

しかし

袋井市最寄りの新幹線停車駅である掛川は、「こだま」しか停車しない珍しい駅である
「のぞみ」「ひかり」の乗客は文字通り通過している。

2019年に開催されたラグビーのワールドカップでも5万人以上のサポーターがエコパスタジアムを訪れたが、ほとんど袋井市に宿泊せずに、掛川や浜松の宿泊施設へ帰っていった。



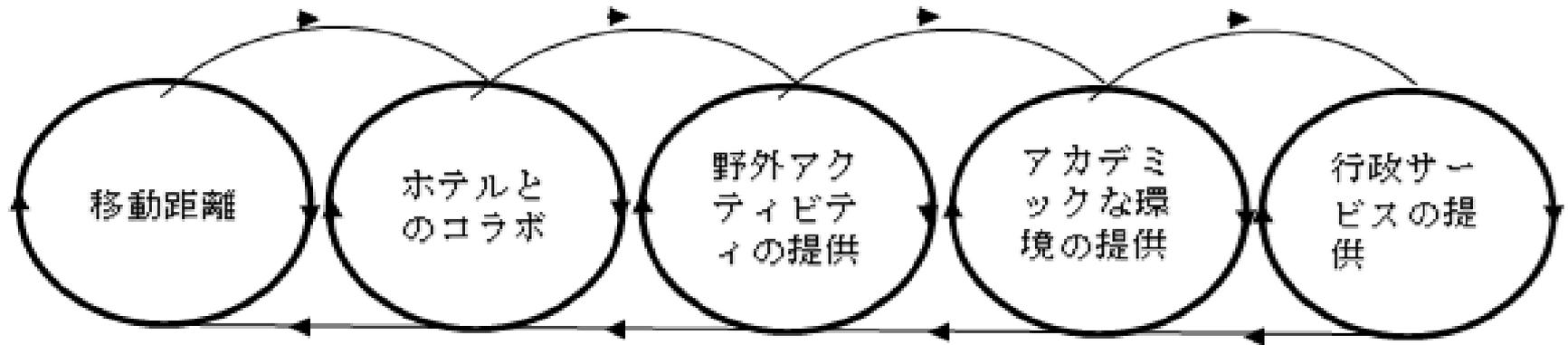
解決すべき課題

情報発信して、観光客や修学旅行客の誘致につなげるか
ということは、大いに議論されなければならない



- ・国内の同程度の地方都市におけるグリーンツーリズム成功事例を分析することで、成功モデルを導く
- ・その成功モデルを袋井市にあてはめてみることで、グリーンツーリズム導入のためのヒントを得ることで、袋井市への提言する

グリーンツーリズム導入モデルの確立方式



国内の修学旅行と対象とし、グリーンツーリズムを実現するための条件



1. バスで移動できる程度の適度な距離

都心にある中学・高校の修学旅行を想定した場合であれば、東京から高速道路に乗って3-4時間程度で移動できて、高速を降りた後でも渋滞のない国道を利用して目的地につけるところであれば、修学旅行の目的地としての役割を果たすことができる

2. 近隣のホテルとのコラボレーションの実現

近隣の市や町にある中規模以上のホテルとコラボレーションすることで、夜はホテルに宿泊して衣食住を提供し、翌朝から野外活動を行うことで互いにメリットを享受できる。

3. 野外アクティビティや農業体験コンテンツの提供

都会では体験できない野山を対象とした野外アクティビティ、都会にはない農業体験、地産地消される農作物を用いた料理体験などであろう。このようなエクスカージョンをメニューとして取り入れれば、修学旅行客を相手に十分なエンターテインメントが供給できる



4. 歴史的な遺産やアカデミックな環境の提供

その土地の歴史的な遺産において、文豪が長期滞在して有名な小説をかきあげた、などのアカデミックな史実に関連していることが望ましい。それらの環境で見学や体験といった学習機会があることも望ましい

5. 政の積極的な関与による行政サービスの提供

行政など公の立場の機関が間に立ってくれば、ある程度の保障があるという気分になる。

行政の積極的な関与による行政サービスの提供が不可欠と考えられる



事前研究

修学旅行先としても実績がある伊豆市

1.伊豆市の歴史的背景

伊豆の修善寺温泉

三島由紀夫の小説『伊豆の踊り子』の舞台

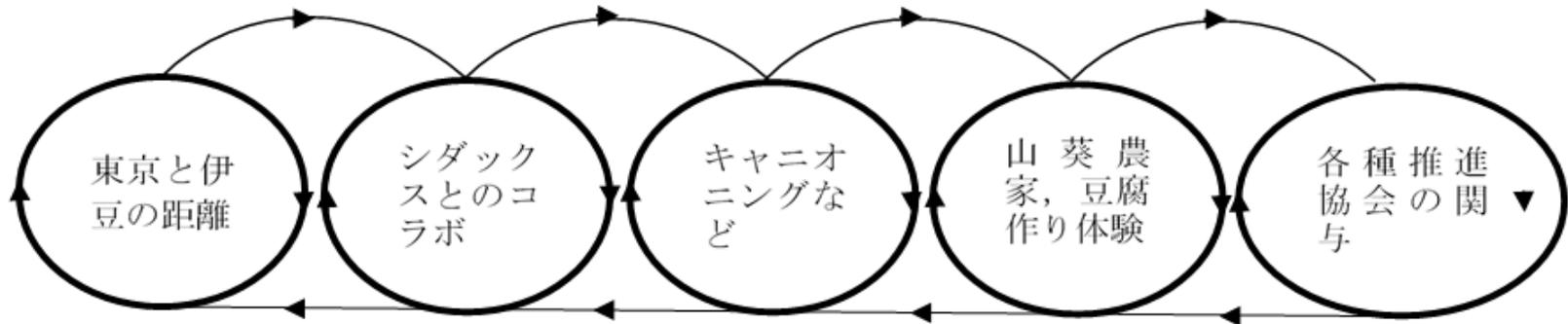
2.グリーンツーリズムに対する伊豆市の取組み

伊豆市観光協会の中伊豆支部

グリーンツーリズムを推進



3.適用評価



グリーンツーリズムの確立方式を伊豆市の事例に適用することで、その有効性を評価する。



3.1 都心からバスで移動できる程度の距離であること

伊豆市は、神奈川県と静岡県との県境にあり、都心の高校からスタートしても、東名高速道路で約3時間程度も移動すれば伊豆にやってくることができる。



3.2 近隣のホテルとのコラボレーション



中伊豆ワイナリーヒルズとの協業(コラボレーション)することで、団体の修学旅行客の宿泊地を提供している。



事前研究

3.3 野外アクティビティや農業体験の提供

伊豆では、キャニオニングや乗馬体験がある
キャニオニングができる土地は滅多にない
ため都会の学生にとっては非常に良い経験
となる。



地産地消の作物を用いた農業体験など提供
していて、地元産の大豆と天城山の名水で作
られる





事前研究

3.4 歴史的な遺産や農業体験の提供

現在、伊豆の「山葵栽培」は日本農業遺産に登録されている。



3.5 各種推進協会の積極的な関与

伊豆市観光協会の中伊豆支部が中心となり
グリーンツーリズムを推進している

成功モデルの袋井市への適用

1 適度な移動距離

首都圏から袋井市のある掛川インターまでの距離は約200km
バスで移動する場合を想定すると、東名高速道路を用いることで、
約3時間で袋井まで移動できることになる

2 5市1町とのコラボレーション

袋井駅の目の前に一つ大きなホテルがあるだけで、
その他に修学旅行客を受入れる施設は見当たらない

周辺の5市1町にあるホテルと協業(コラボレーション)することで、
宿泊場所を提供するほうが賢明であろう

袋井市におけるグリーンツーリズム成功要件



3 野外アクティビティ



袋井市の茶摘み体験，茶の手揉み，和服によるお茶席体験

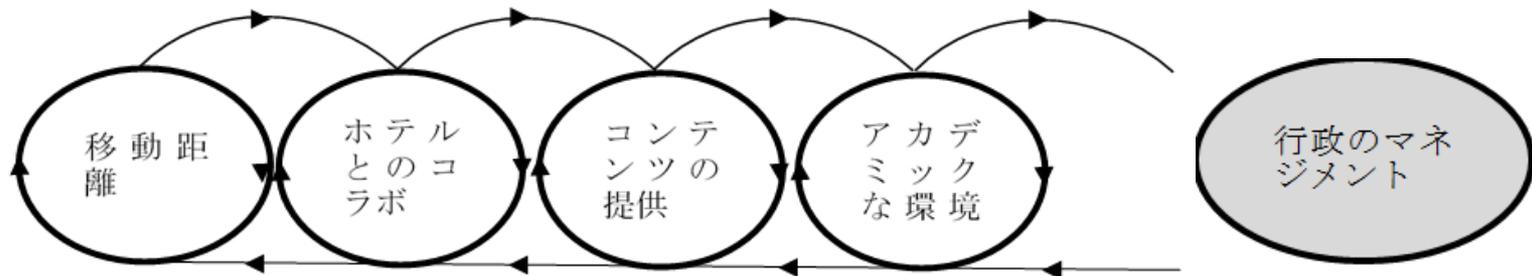
4 農業体験供やアカデミックな環境



法多山の万灯祭，油山寺の巨大な数珠，可睡斎の雛人形



5 行政によるマネジメント



伊豆市では、行政が積極的に関与し、他地域からの問い合わせなどに対応し、適切な情報を提供するという体制が整っていた

広義の行政がマネジメントを提供してもらえることが成功要因になると考えられる



本研究から袋井市への提言

- 伊豆市のような成功事例をもつ行政同士が連携して、情報共有を行う
- 袋井市が提供できる体験型コンテンツのシナリオを描く
- 袋井市を中心とした5市1町が連携してコラボレーションする体制を構築



むすび

本研究は、袋井市におけるグリーンツーリズムの導入の可能性を検討し、その結果から袋井市への提言をまとめたものである

- ・袋井市にグリーンツーリズムを導入することで、袋井市の地域を活性化させ、新たな産業の創出が期待される
- ・グリーンツーリズムの成功モデルを理論的に設定し、移動距離、ホテルとのコラボレーション、野外アクティビティの提供、アカデミック環境の提供、行政によるマネジメント、の5つの要素が必要不可欠であると考えた

袋井市にはグリーンツーリズムを導入するための十分なコンテンツが揃っていて導入可能であると判断した



End of Document